

40:1 主はさらに、ヨブに答えて仰せられた。
40:2 非難する者が全能者と争おうとするのか。
神を責める者は、それを言いたててみよ。
40:3 ヨブは主に答えて言った。
40:4 ああ、私はつまらない者です。あなたに
何と口答えできません。私はただ手を口に
当てるばかりです。
40:5 一度、私は語りましたが、もう口答えし
ません。二度と、私はくり返しません。

42章のヨブの答えからもわかりますが、彼の心
にはすでに自分が正しいという主張はなかったと思
われます。主はたたみかけるように、ヨブに彼の弱
さを知らしめるように語られます。なぜでしょう
か。ヨブには主権者なる神のことばをひれ伏して聞
く心ができていたからでしょう。友人たちが語った
ときのように、反論しながら聞くのとは全く違いま
す。主はヨブを告発するために語られるのではなく、
彼を教え諭し、その信仰を確かにするために語って
おられるようです。

ここに大切な真理があります。ひとつは、人を導
こうとするとき、ヨブの友人たちのように、正しい
と思えることをことさらに言い続けたり、ときには
相手を非難することで聞いてもらえんと思っても無
理だということ。むしろ、この例のように、神
様が語っていただくことを求めなければなりません。
自分の説得で相手が変わるはずだと考えるのはむし
ろ傲慢ではないでしょうか。次には、神の主権を認
めひれ伏すなら、心に平安が来るということです。
ヨブは自分の正しさを主張していたときは二重の苦
しさを味わっていました。病の苦しさ、自分が非
難される苦しさです。そんなヨブも、今は心定まっ
て神のことばを聞いています。みことばがそのまま
心に入っている状態でしょう。

自分の正しさを主張するよりも、主の前にひれ伏
しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願い
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

